

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友達となかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

【学校から】○一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応では、保護者の「4」の割合が増えた。次の項目の「友達への思いやり」についても、保護者・児童ともに「4」および「3」の割合が増えていることから、子どもたちの姿から、豊かな心をはぐくむ教育の進み具合を感じていただいているのだと思う。○道徳・心の教育の充実について、教職員の「4」の割合が下がっているのは、教師の理想とする姿にまだまだ達していないという意欲の高まりの裏返しの結果だととらえたい。今後のより確かな手ごたえを感じられる具体的な取り組みを工夫して、努力を続けていきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

【学校から】○ICTの活用に関しては、保護者・児童・教職員とも「4」「3」の割合が大きく伸びている。確かに「電子黒板」や「実物投影機」等の導入、来年度からはタブレット端末も使用するようになるなど、教室の学習環境は大きく変わってきている。それを子どもたちの学習意欲向上につなげ、学力向上にまでもっていくには、教職員の授業力向上の努力にかかっている。「わかる授業」「楽しい授業」への子どもたちの期待も大きい。教員間でアイデアを出し合い、工夫をして授業改善に努め、子どもたちに確かな学力をつけていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】○健康づくりに関して、児童の自己評価が低いことに注目する。「栄養・運動・休養」の子どもたちの発育に最も重要となる要素に、子どもたち自らが十分でないと感じている。健康な体を育むための環境づくりに家庭と子どもと学校とが連携・協力して取り組んでいく必要がある。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。

9 いじめや問題への対応
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

②特別支援教育の推進

10 学校の支援体制
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

【学校から】○児童理解の項目については、教職員の評価に比べて児童の評価は低い。もっと自分のことを認めてほしいという児童の声に応える工夫が必要である。○いじめや問題への対応については、教職員の評価に対して保護者の評価が低い、家庭でつかんでいる問題を学校が把握していないことなどが理由として考えられる。児童の思いをつかむ工夫をするとともに、これまでも、気になることがあれば必ず保護者への連絡をするように心がけてきたが、より一層、家庭と学校が連携していじめや問題に対応していくような取り組みが必要である。なお、これら2項目については、児童の評価は昨年度より10%程度否定的な答えが減っていて日常の教育相談の成果も上がっていると考えられる。○学

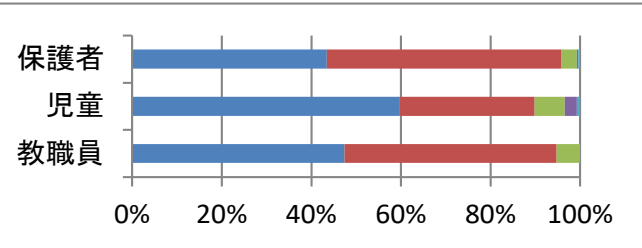
校の支援体制については、9割以上の肯定的な評価を得ている。これからも、つくし学級・スマイル学級を核として、支援体制を充実したい。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

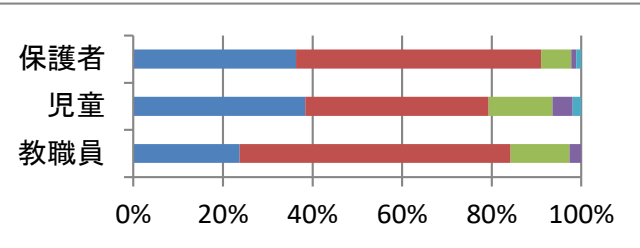
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】○毎月の施設安全点検を入念に行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し、子どもの事故防止に努めている。また、避難訓練を定期的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

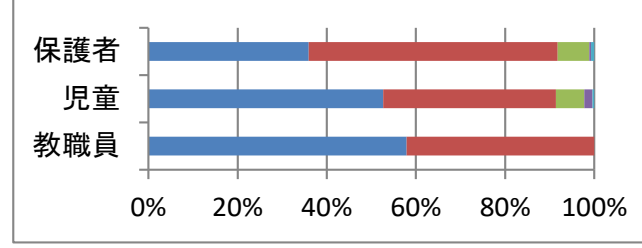


【学校から】○本校の施設・設備については、古さは否めないが、安全面を第一に考え、また、授業や諸活動に支障をきたさないように整備、点検を行ってきている。予算的に難しい点についても、改善要望等をしていきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

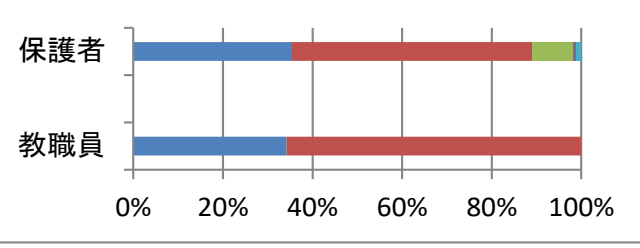
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○学校から保護者へは、学校だより、PTA総会、懇談会などの機会を利用して、教育方針・目標を伝えてきた。児童にも、始業式・終業式、集会時に伝えてきた。今後も、学校ホームページも利用して、子どもたちの姿・先生たちの姿を通してより具体的に「清水小の教育」を伝える努力をしていきたい。また、家庭とも共有できる目標を設定して、互いに進捗を確認できるような取り組みも考えていきたい。

14 家庭や地域との連携協力

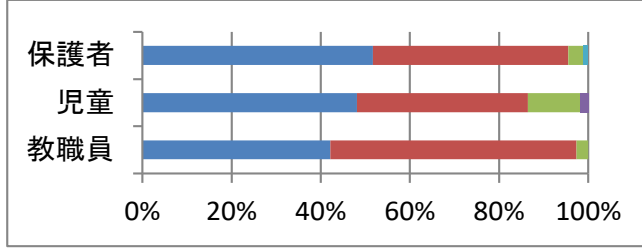
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



④本校の教育

15 1道徳教育の充実

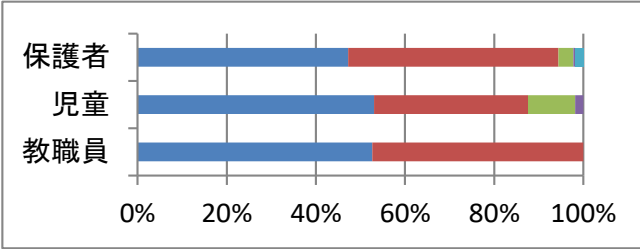
d先生方は、あいさつやそうじ、履物並べなどの指導に力を入れていると思いますか。



【学校から】○今年度は「互いに認め、支えあい、協働する学校」～「いいね～」が溢れる清水小学校～を教育目標として取り組んできた。校内研修においても、道徳・特別活動を中核に据えて実践を重ねてきた。授業や帰りの会、集会や行事においても、発表に対する感想交流を頻繁に行った。「いいねの木」と称した認めあいの視覚化を図る取り組みも行ってきた。その結果として、子どもたちに、友達のよさを認める態度や、友達に認められることによる自尊感情の高まりも見られ、また、子どもたちの「いいね」の視野が「行為」だけでなく「心」へも広がりがつつある。しかし、15%近くの子どもたちが、まだ取り組みに不十分さを感じているようである。学校生活全体を通して子どもたちの心を育て、それが生活にも生かされていくような取り組みを続けていきたい。

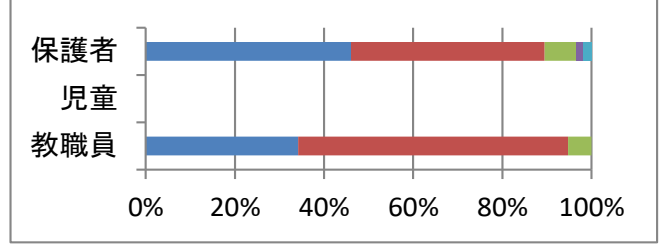
16 2「いいね」があふれる学校への取り組み

d先生方は、互いを認めあう「いいね」があふれるような取組に力を入れていると思いますか。



17 3情報提供

d学校は、ホームページや学校便りなどで情報提供に努めていますか。



来年度の具体的な取り組みについて

○豊かな心を育み好ましい人間関係を築く力をつけるために、道徳や特別活動の充実を図ります。校内研修等を活用し、道徳授業の改善を行い、学級の充実や縦割り活動を取り入れた児童会活動の活性化を目指します。
 ○確かな学力をはぐくむために、熊本市学力検査の結果の分析をするとともに少人数指導やICTの有効活用をするなど指導方法の工夫をし、個別指導や既習事項の定着化のための取り組み及び家庭学習の習慣化を通し、基礎学力の充実を図ります。
 ○授業中の望ましい学習態度の徹底を継続し、目当ての提示や振り返り活動の実施とともに、安心して自分の意見が言える支持的風土を醸成し、「わかる」「できる」経験を積み重ねることで、学習意欲の向上を図ります。
 ○児童一人ひとりを大切に教育を進めるために、心のアンケートをはじめ個別教育相談を実施するなどして児童が安心して担任等に相談でき、自分らしさを発揮できるように、係活動など、一人ひとりの持ち味を生かした学級の中での居場所作りを進めます。
 ○児童の様子については、積極的に保護者へ連絡し、家庭と連携した指導を行います。また、地域との交流を積極的に行い地域に開かれた教育活動を進めていきます。
 ○つくし学級在籍の児童をはじめとして、個に応じた指導を工夫するとともに、校内のバリアフリーや授業のバリアフリーを進めるとともに、心の面でのバリアフリーについても人権教育部を中心に全職員で進めていきます。
 ○健康づくりの面では、外遊びの励行を行ったり、健康な生活習慣の定着に向けて今後も保護者の協力を呼びかけたりし、教科体育の充実と体力向上対策を図り、児童の体力づくりにつなげます。

学校関係者評価

- 授業参観をしてみて、どの児童も落ち着いてのびのびと学習しているように感じた。先生方の努力の成果であろう。また、児童がよく手を挙げて発表していて表情もよかった。
- 4年生の英語の授業を見て、とても高度なことをやっているのだなと思った。やはり、学校は大きく変わってきていると実感する。授業で使う教材の用意もよくしてあったが、先生たちの準備も相当なものだろうと想像できる。
- 家庭との協力・連携が大切だが、同じ土俵に乗るまでが難しく工夫が必要であろう。子どものよさをたくさん引き出して、子どもの自己肯定感を高め、その姿を親が認めて、学校と家庭が共通の話題で課題についても話ができるようになるといいと思う。
- タブレット端末などについては、親や子どもたちのほうが操作に長けていると思われるが、うまく使えば学習意欲は上がるだろう。学習環境の変化を感じている。ICTのよさを生かす指導法をよく研究して機器の活用に取り組んでほしい。
- 先生たちの長時間労働などが話題になっているが、保護者対応などでメンタルを病んでいる教員が多いとも聞く。先生たちの心のケアもしていく必要があるだろうと思う。